



現代音楽作曲家

やぶたししょういち  
萩田翔一さん(31) たつの市御津町朝臣

空間を切り裂くバイオリンの音。クラリネットがうねり、高速のピアノの反復がかぶさる。混とんの中に共鳴が生まれ、音の世界が構築されていく。

たつの市龍野地区で16日まで開催中の「龍野アートプロジェクト2014 日波現代芸術祭

播磨びと、



『流れ』。新進気鋭の作曲家として自作の12曲を発表。映像や舞踏を交えた舞台監修も手掛け、多才ぶりを発揮した。小学校の音楽教師だった祖母、ピアノ教室を開く母を持つ。ミュージシャンの小室哲哉にあこがれ、4小節10秒ほどの曲を

## 新しい音の世界を創造

作ったのが小学6年のとき。「母が小室さんの曲と聞き間違えて。自分も作れるかなと」

高校3年から本格的に勉強を始めた作曲家への道は、平たんではなかった。卒業後3年間をレッスンに費やし音楽大へ。学生時代は図書館で古今東西のクラシック音楽を聴きあさり、毎日1曲の制作を自らに課した。

「宇宙誕生」「音の流れ」。

さまざまイメージから紡ぎ出す作品は緻密な構築美で知られ、国内外のコンクールで高い評価を集める。「聴く人に未知の地を旅するような初めての音楽体験をしてほしい」。新しさへの追求は演奏家に高度な奏法を要求する。ともに極めた境地にこそ音楽を創造する喜びがある。

欧米での修業を経て東京を拠点に活動する。「100年後の演奏会でベートーベンらと一緒にプログラムに並ぶような楽曲を作りたい」。今後は「渦」をコンセプトに、自らに宿るアジア的な感性を武器に現代音楽の牙城に切り込む。(松本茂祥)